

(財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6 CYDビル

TEL 03-3502-3671(代) / FAX 03-3502-3265

ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>

E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

第 244 号 / 2010. 1

Index

- 年頭所感
- 地下開発利用研究センター 設立 20 周年記念
忘年会 開催報告
- 平成 21 年度 JKA 補助事業 第 2 回委員会報告
- 会員の皆様へのお知らせ
- 土木学会 第 15 回地下空間シンポジウム
開催のご案内

■年頭所感■

経済産業省 地域経済産業審議官 塚本 修

新年明けましておめでとうございます。平成 22 年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。新たに始まりますこの一年が、皆様にとって明るく希望に満ちたものとなりますよう、微力ながら努めてまいります。

昨年の地域経済の情勢を顧みますと、生産については在庫調整の進展や海外向け受注の増加、エコカー減税・補助金やエコポイント制度により一部持ち直しの動きが見られました。しかしながら、少子高齢化による労働力人口の減少、グローバル化に伴う競争激化等、地域経済を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、今後も予断を許さない状況にあります。特に、雇用に関しては各地域で有効求人倍率が低下する等、非常に厳しい状況です。このため、昨年 12 月に取りまとめられた「明日の安心と成長のための緊急経済対策」においても、雇用創出産業の立地支援対策や地域・中小企業の海外販路開拓支援等を盛り込んだところであります。

このような状況において、我が国経済が持続可能な発展をしていくためには、全国各地域が有する多様な強み・特色や潜在力を積極的に活用し、新たな産業や雇用を創出していかななくてはなりません。活力ある地域経済社会を築き、地域経済の自立・再生・活性化を進めていくことが重要です。私は、昨年 7 月に着任以来、全国各地の声を聞いてまいりましたが、各地域には、それぞれの強み・特色がたくさんあり、それらを十分に活かすこと

が出来れば、我が国経済の持続可能な発展が達成できると確信しております。

以上を踏まえ、本年は、地域経済の活性化が結果として我が国全体の国力を維持・向上させていく

こと、すなわち「地方からの国富増大」を目標に地域経済政策に取り組んでまいりたいと思っております。

そのために、「地域からのイノベーション創出のためのプラットフォームづくり」、「地域の特長を活かした基幹産業の確立」、「地域経済産業の好循環を生み出す地域連携の仕組みづくり」の 3 点について積極的に取り組んでまいります。

第 1 に、「地域からのイノベーション創出のためのプラットフォームづくり」については、他地域で蓄積された成功事例等のナレッジ・ノウハウ・情報の共有化や、地域内では得られない人材、資金、事業パートナー等との「つながり」作りを円滑にするネットワークの構築・充実・強化を行います。それにより、各地域における産業振興をより効果的かつ効率的なものとし、知識と技術と経営の連鎖による地域イノベーションの基盤の構築・強化を目指します。

第 2 に、「地域の特長を活かした基幹産業の確



立」については、地域の強み・地域資源・地域特有の産業構造を活かし、域外市場を獲得できるような競争力ある基幹産業の確立を目指します。そのために、地域における計画的・戦略的な産業集積形成を促す企業立地促進法を大胆に活用し、基礎自治体や都道府県を越えたより広域的な連携を支援します。また、地域の基幹産業である農林水産業と商工業が連携し、お互いの強みを活かして新たな事業に取り組む「農商工連携」の更なる促進も重要です。「農商工連携」については、これまで国内においては一定の成果をあげてきたと考えております。今後は、食品加工産業、流通事業者等との連携も含め、海外市場も視野に入れた取組を広げていくことが重要だと思っております。

第3に、「地域経済産業の好循環を生み出す地域連携の仕組みづくり」については、特に、資金の域内での循環に着目して、取り組んでまいります。現状を見ますと、地域で生み出された資金が十分に地域において活用されておらず、地域の活

性化をもたらす好循環が実現できておりません。このような認識の下、地域金融機関が地域経済活性化の重要な担い手として活躍していけるよう、地域金融連携プログラムを推進し、金融機関の人材育成、人事交流や市域・県域を越えた金融機関同士のネットワークの強化等を行ってまいります。

最後に、地域における社会的課題等をビジネスの手法を活用して解決するソーシャルビジネスの振興にも積極的に取り組んでまいります。また、新たな施策要望も含めて、皆様方のご意見を拝聴しながら、実効性のある施策実現に向けて、情熱を持って取り組んでまいります。

本年も皆様の一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に勇気のでる言葉をもって新年の御挨拶とさせていただきます。

「夢は逃げない、逃げるのは自分
夢は叶う 夢を持とう」
「今が大切、つとめてやむな」

■地下開発利用研究センター 設立20周年記念 忘年会開催報告■



激励の言葉 小島 圭二氏



乾杯 田代 民治氏



中締め 荒井 康博氏

地下開発利用研究センターは、平成元年（1989年）9月に設立され20周年を迎えました。節目の年という事で、当初は昨年10月8日に記念懇親会を計画致しましたが、残念ながら台風の接近で中止せざるを得ませんでした。多くの方々から、折角の懐かしい顔ぶれが集まる機会が無くなってしまったので、是非とも別の機会を作って欲しいとのご要望が寄せられました。

そのため、暮れも押し迫った時期でしたが、平成21年12月8日（火）18:00から当協会6階会議室にて、設立20周年記念忘年会を開催致しました。

当日は、当センターの活動に関わられた100名をこえる皆様方のご参加を得て、とても盛況な会となりました。

開会にあたり入澤常務理事の協会挨拶に引き続き、当センター設立以来大変お世話になっている小島 圭二（財）エンジニアリング振興協会 顧問（東京大学名誉教授 地圏空間研究所 代表）から、この10年間を振り返り、「新たな考え方、新たな設計などのアイディアを出せば、地下空間はまだ活用できるので、みんなで頑張ろう。」と、心強い激励の言葉を頂戴しました。

引き続き田代 民治 運営会議委員長（鹿島建設 取締役専務執行役員 土木管理本部長）のご発声とともに乾杯し、祝宴に入りました。

会場の各テーブルには、当協会の機関紙「Engineering」地下センター設立20周年記念号がおかれ、出席者が手にとってご覧になったり、「地下センターの過去・現在・未来」について御

歓談に花を咲かせていただきました。

途中、スクリーンに地下センターのここ5年間の活動についてのスライドが映し出された頃には、祝宴は大変な盛り上がりようで、時の経つのも忘れ去られました。

最後に、荒井 康博 研究企画委員会委員長(大成建設(株) 専務 土木営業本部長)のご発声により、三本締で中締めをし、お開きとなりました。

当日ご参加いただきました皆様方に、この紙面をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。

今後とも、より一層のご指導ご鞭撻をお願い致します。



会場 風景

■平成21年度（財）JKA補助事業 第2回委員会報告■

*本事業は競輪の補助金の交付を受け実施しています。

□首都圏大深度物流トンネル構想に関する調査

平成21年度第2回委員会（委員長：高橋 洋二 日本大学 総合科学研究所 教授）が、平成21年12月4日(金)に当協会会議室で開催され、調査結果の中間報告が審議されました。

1. 目的

本調査研究では、東京湾内の複数のコンテナターミナルで取り扱うコンテナを「新輸送システム」を採用した大深度地下物流トンネル」を利用して、既成市街地内を通らずに、直接、園央道青梅 IC 付近に整備するインランドデポに搬送する物流システムについての可能性を調査することを目的とする。

2. 研究内容

- (1) コンテナ集約、輸送システム検討
- (2) 整備コスト試算及び事業の評価
- (3) 調査研究成果のとりまとめ

第1回委員会での御指摘事項等を踏まえた、地下物流への効果的なコンテナ集約方策、合理的なコンテナ輸送システムの検討状況が報告されました。

物流トンネルの便益を計算する上で、輸送の安全、環境への影響、災害時の都市のリダンダンシーを考慮に取り入れ、この事業の有益性の芽をなくさないように取りまとめて提言していく予定です。

□地下水・再生水利活用の地下空間利用に関する調査

平成21年度第2回委員会（委員長：徳永 朋祥 東京大学 准教授）が、平成21年11月5日(木)に当協会会議室で開催され、調査結果の中間報告が審議されました。

1. 目的

本研究では、地下の高度利用における周辺技術や事例等を検証し、都市内の熱循環やヒートアイランド対策、CO2削減、防災・減災に対して高い有効性の考えられる水循環系と防災・減災システム構築の実現化に向け、小規模地下貯水槽への分散貯留と、これら個別貯槽をネットワークで結ぶシステムの実現に向けたソフト・ハード面での提案・提言を行うものである。

2. 研究内容

- (1) 基本コンセプトの検討
- (2) 環境保全・改善効果の評価指標の検討
- (3) 事業化地域の選定
- (4) 各施設構造・機能等のシステム概略検討

上記の研究内容に対して、9月にヒアリング調査(福岡県庁、他)を行っており、基本コンセプトに検討を加えるとともに、(2)および(3)項についても、更なる検討を行っています。また、11月には名古屋市を訪問し地下に建設された雨水貯留施設を見学するとともに、システムの検討に向けたヒアリング調査を行い、それらの結果により、成果の取りまとめと課題の抽出を行う予定です。

口都市部における架空送電線の地下化に関する調査

平成 21 年度第 2 回委員会（委員長：駒田 広也（財）電力中央研究所 研究顧問）が、平成 21 年 11 月 13 日（金）に当協会で開催され、調査結果の中間報告が審議されました。

1. 目的

架空送電線は、地中送電線に比べて建設費が安く、送電損失が少ないために経済的ではあるが、自然災害、人的災害の発生の懸念、都市景観保全、都市空間の有効利用等の課題も存在する。自然災害や事故・テロ等による被災リスクを低減するとともに、架空線跡地の有効利用、都市景観・環境保全等の観点から現状の架空送電経路、地下インフラ、都市計画の概要、送電技術等を調査し、今後の架空送電の地下化の可能性を明らかにするこ

とを目的に調査検討を行う。

2. 研究内容

- (1) 既存送電ネットワークの調査
- (2) 地下送電技術の調査
- (3) 当該地区の都市状況の調査
- (4) 地下化の可能性検討
- (5) ケーススタディーの実施

既存送電ネットワークの現地踏査結果が報告され、今後のケーススタディーの方向性等が審議されました。

上記の研究内容に対して、11 月末に大阪でヒアリング調査（超電導ケーブル技術、他）を行っており、今後成果の取りまとめに反映する予定です。

■会員の皆様へのお知らせ■

*1 月のサロン・ド・エナは休会です。

次回第 323 回サロン・ド・エナは 2 月 10（水）16:30～19:00 の開催となります。

詳細は 1 月上旬に当協会のホームページに掲載いたします。

（財）エンジニアリング振興協会ホームページ <http://www.ena.or.jp/>

■土木学会 「第 15 回地下空間シンポジウム」開催のお知らせ■

～低炭素社会と地下空間利用～そのさらなる可能性

1. 日時：2010 年 1 月 19 日（火） 9:30～17:00（予定） 開場 9:00
2. 会場：早稲田大学国際会議場
〒169-0051 新宿区西早稲田 1-20-14 TEL 03-5286-1755
3. 主催：（社）土木学会 地下空間研究委員会
4. 後援：国土交通省、（社）日本建築学会、（社）日本都市計画学会、（社）地盤工学会、（社）資源・素材学会、日本応用地質学会、（財）エンジニアリング振興協会、都市地下空間活用研究会
5. 参加費：土木学会会員 8,000 円、非会員 9,000 円、学生会員 3,000 円
6. 申し込み方法：学会誌綴込み、または土木学会ホームページから
<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp> 「参加申込先」までお申込みください
7. : 申し込み締め切り：2010 年 1 月 8 日（金） / 定員：250 名（先着申込順）
* 申し込み締め切り前に定員に達している場合がございますのであらかじめご了承ください。
なお、締切日以降の事前受付はいたしません。
定員に余裕がある場合のみ、当日に会場にて受付いたします。
お問合せ先：土木学会 研究事業課 担当：二瓶氏 TEL：03-3355-3559